１２月２２日（日）　ショートメッセージ
聖　書　マタイによる福音書　１章１８節～２３節　　（新約　１頁）
メッセージ　「イエス・キリストの誕生」

イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。
（マタイによる福音書　１章１８節）

（１）クリスマスは１２月２５日ですが、福岡女学院教会では、２５日が平日の場合、その直前の日曜日、アドベント第４主日にクリスマス礼拝を献げますので、本日がクリスマス礼拝となります。アドベント第４主日の主題は「告知」です。今年のクリスマス礼拝は聖書日課にあわせて、マタイによる福音書を読みます。

（２）マタイによる福音書は「イエス・キリストの系図」から始まります。この系図はイエス様がアブラハムの子孫、ダビデの子孫である事、また、アブラハム、ダビデ、バビロン捕囚、イエス・キリストの誕生まで全て１４代である事を示しています。

そして１８節からイエス様の誕生の次第が記されます。

イエス様の母マリアは、ヨセフと婚約していました。ルカによる福音書では「いいなづけ」であったとされています。

さて、二人が一緒になる前に、マリアは聖霊によって身ごもっている事が明らかになりました。しかし夫ヨセフは聖霊によって身ごもるという事がどうしても理解できません。ヨセフは律法の掟に忠実な正しい人でした。もし、婚約者のマリアが身ごもってる事、そして自分にはそれが理解できない事が表沙汰になった時、とても面倒な事になってしまいます。そこで、彼は密かにマリアとの縁を切ろうと決心していました。律法に忠実である事を考えた時、彼にとって最善の方法だったのでしょう。

ところが、彼がそう考えている時、主の天使が彼の夢に現れて彼に告げました。

「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」（２０節～２１節）

神は天使を通してヨセフに、聖霊によって身ごもったマリアを妻として迎え入れなさい。マリアは男の子を産む。その子は自分の民を罪から救うからイエスと名付けなさいと告知しました。イエスはヘブライ語のヨシュアという名前の省略形に由来し、「救う者」を意味します。

福音書記者は、このすべてのことが起こったのは、神が預言者を通して言われていたことが実現するためであったとし、イザヤの預言をここに記します。**「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」（２３節）。**

インマヌエルとは「神は我々と共におられる」という意味であるとも記しています。

（３）聖霊によってマリアの胎に宿り、神の告知によってヨセフ、マリアの子として生まれたイエス様は、人々を罪から救い、人々にインマヌエルを伝えました。ヨセフは律法の正しさよりも神の告知を選びましたが、律法の実行よりも律法の完成を教えたイエス・キリストの誕生にふさわしい物語であると思います。　（多田玲一牧師）